

①5歳/女の子 喪主/父 病気で闘病していた。

【基本情報】

- ・喪主は父。
- ・生まれた時から短命だと医者に言われていた。
- ・両親は覚悟していた。

【ヒアリング内容】

- ・大きくなったらママのようになりたいと言っていた。
- ・好奇心旺盛で、どんなことにも興味を持っていた。
- ・公園によく散歩に行ったこと。
- ・とにかく可愛くてたまらなかった。
- ・日々の成長が嬉しかった。
- ・ドキンちゃんやプリンセスが好き。
- ・病気を治すため、好き嫌いなくなんでも食べてくれた。

小さな天使の娘へ

娘がこの世に生まれてきてくれたことで、私たちは家族という絆を深く感じることができました。元気で好奇心旺盛な娘は、アンパンマンのドキンちゃんやディズニートのプリンセスに大きな愛情を示していました。特に、ディズニールランドに行くことを心から楽しみにしており、その瞳を輝かせる姿は忘れられません。公園への散歩では、桜並木を歩きながら見せた笑顔が今も心に残っています。

何事にも興味を持ち、食事も好き嫌いなく何でも食べる姿は、私たち家族にとって大切な思い出です。

そして、「大きくなったらママみたいになりたい」と言ってくれた言葉は、これから先もずっと胸に刻まれるでしょう。

「今度生まれてくる時は健康で元気いっぱい遊べますように」という願いを込めつつ、娘がこの家族の一員であった時間全てに感謝します。

娘山本朱美は、令和七年五月五日、五歳にて早すぎる別れを迎え、空へ旅立ちました。

娘の成長と喜びを支えてくださり、あたたかなお力添えをくださったことに、心より感謝申し上げます。

本日はご多用中ご参列頂き、誠にありがとうございます。略儀ながら書状にてご挨拶申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいますようお願い申し上げます

①山本朱美様 5歳 令和7年5月5日逝去

心から慈しみ、育んだ日の懐かしさ。

その時々思い出が、押し寄せ、悲しみが募ります。

朱美ちゃんは、令和2年5月3日に広島市で生まれました。

天使のように可愛らしい笑顔を家族にもたらししてくれた朱美ちゃんは、

色んな事に興味を持ち、好奇心旺盛・・・。

お人形遊びが大好きで、

特にアンパンマンのドキンちゃんやディズニーのプリンセスたちは、

朱美ちゃんのお気に入りでした。

大切にしていたぬいぐるみは、朱美ちゃんのお友達のようなものでした。

初めて歩いた瞬間や、公園で家族と一緒に桜並木を歩く可愛い姿。

大きくなるにつれ、なんでも自分でしようと頑張る姿。

晩ご飯の時も好き嫌いなく何でも食べてくれる笑顔。

そして、未来の夢はママのような素敵なお母さんになることだったそうです。

「生まれてきてくれてありがとう」

朱美ちゃんが家族に残してくれた多くの思い出や教えは永遠に受け継がれます。

そして、「元気いっぱい遊べる場所」でまた会えたら嬉しいですね。

人が生まれてきた理由は、誰かの役に立つためだといわれています。

振り返れば、共に過ごし、喜びや幸せを分かち合った日々・・・。

たくさんの思い出が今、心に残されました。

②9歳の女の子 喪主/父 突然の事故死。

【基本情報】

- ・ 喪主は父。
- ・ 3人兄弟の末っ子。
- ・ 突然の事故で亡くなった。
- ・ 会葬者が多いと思われる

【ヒアリング内容】

- ・ 兄妹仲が良く、一度もケンカしたことがない。
- ・ スポーツが大好き。
- ・ かけっこやダンスが得意。
- ・ 将来は女子サッカー選手になりたかった。
- ・ 運動会では活躍していた。
- ・ 一緒に過ごした時間が当たり前でなかったことを知った。
- ・ もっと抱きしめたい。

笑顔があふれる想い出がいっぱいです

娘はいつも元気いっぱい、末っ子らしく家族みんなからたくさんのお愛を受けて育ちました。甘えん坊でありながらも、その優しい性格が家族の中でとても大切な役割を果たしてくれていました。楽しかった毎日、急に訪れた別れに心からの寂しさを感じずにはいられません。

サッカーが大好きだった娘は、よくお兄ちゃんについて一緒に練習していましたね。その姿は家族全員の宝物です。女子サッカー選手になるという将来の夢を持っていただけに、お空でもきつと元気に走り回っていることでしょう。兄妹三人が仲良く過ごす姿は、見ているだけで幸せな気持ちにさせてくれましたね。特に学校の運動会では、体を動かすことやダンス、スポーツを心から愛していた娘の活躍を間近で見守ることができていましたね。

娘岡田きららは、令和七年四月七日、九歳にて空に輝く星となりました。

皆様と一緒に過ごした時間は、娘にとって大切な宝物だったに違いありません。

娘の歩みを支えてくださいました皆様へ、深く感謝を申し上げます。

本日のご会葬、誠にありがとうございました。

略儀ながら書状をもって御礼申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいます
ようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

②岡田きらら様 9歳 令和7年4月7日逝去

風に揺れる葉桜が、春の訪れを静かに告げています。

見る人の心を和ませてくれた桜の花は、

人々の心に美しい余韻を残し、散りゆきました。

きららさんは、平成28年3月12日に山口県下関市で生まれました。

3人兄弟の末っ子として、元気いっぱい甘えん坊だったきららさんは、

特にお姉ちゃんとお兄ちゃん、ご家族にとっても大切な存在です。

そして何より、兄妹3人はとっても仲良し。

普通ならば兄妹ケンカもあるかと思われそうですが、

とにかく仲良しだったと、お父様、お母様からお伺いしました。

サッカーが大好きで、女子サッカー選手になることを夢見ていたきららさんは、

お兄ちゃんと一緒に練習することを毎日楽しんでいました。

学校では足が速く、かけっこでは常に1番だったそうです。

その思いがサッカー選手への憧れにつながっていたのかもしれません。

体を動かすことやダンス、スポーツが大好きだったきららさん。

運動会ではいつも活躍され、

見守る家族も大きな声で応援をされていたそうです。

「毎日が楽しい日だった」

「お空でも元気いっぱい遊んでね」

「一緒に過ごした時間の大切さ」を改めて教えてくれました。

今はただ静かにその魂が安息することを祈るばかりです。

流れゆく時の中で、思い出は鮮やかによみがえり、悲しみを癒やしてくれます。

この世に生を受け、歩んでこられた足跡。

そこに残された数えきれない思い出を、

私たちは今、惜別の思いで静かにお偲びしています。

③18歳の女の子 喪主/父 白血病で闘病生活が長かった。

【基本情報】

- ・喪主は父。
- ・高校生。
- ・8歳の頃から白血病と診断され、以来、入退院を繰り返していた。
- ・ご両親はとても悲しんでいる

【ヒアリング内容】

- ・運動することができなかったので、よく読書をしていた。
- ・将来は絵本作家になることを夢見ていた。
- ・アナと雪の女王が大好き。
- ・思いやりがあり優しい子。
- ・母親の手料理を美味しいと食べていた。
- ・毎日薬を飲んで、病気を治そうと頑張っていた。
- ・娘の生き方を尊敬しています。

笑顔があふれる想い出がいっぱいです

娘はいつも思いやりの心を持って、周りに優しさを与えてくれました。治療が辛い中でも、決して弱音を吐かず、に我慢していた姿は、本当に忍耐強いと感じさせられました。将来は絵本作家になるという夢を持ち、たくさんの人に夢を届けることを望んでいました。その純粋な夢や希望を聞いたたびに、私たち家族もまた勇気づけられました。娘がこの世界との関わり合いの中で見つけた喜び、例えば本を読むことや映画鑑賞、特にアナと雪の女王を観ることの幸せは、娘の生活における大切な一部でした。

家族や友人との思い出も多く、ディズニールランドへ行った日やママの手料理を美味しいと喜んでくれた何気ない日々は今も心温かな記憶として残っています。娘から学んだ一生懸命生きる大切さや感謝の気持ちは、これから先私たちが生きてゆく上で貴重な教訓になります。最期までよく頑張った娘へ、これまでのたくさんの幸せな思い出に感謝を伝えます。ありがとうございます。

令和七年八月一日、娘 安田まさみは十八歳にて生涯を終え、永い眠りにつきました。これまで成長に寄り添い、共に深い愛情を注いでくださったお友達の皆様、そして支えてくださった皆様には、謹んで感謝を申し上げます。

本日はご多用中にもかかわらずご会葬頂き、誠にありがとうございます。略儀ながら書状をもってご挨拶申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいますようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

③安田まさみ様 18歳 令和7年8月1日逝去

大切な方を、見送らねばならないこの時……。旅立つ方、見送る私たち……。

それぞれの心に刻まれた、色あせることなき、思い出があります。

まさみさんは平成19年7月27日、岡山県倉敷市で生を受けました。

一人娘としてご家族に大切にされご成長されたまさみさん。

思いやりのある優しい人柄は、周りからも大変愛されました。

雅美さんの趣味は読書で、

その夢は、将来絵本作家になること。

多くの人々に夢を届ける仕事が出来たら素晴らしいと、

日頃から話していらっしゃったそうです。

特に『アナと雪の女王』をこよなく愛し、

さまざまな本を通じて主人公たちの気持ちを理解しながら、

ご自身の物語を描いていたそうです。

学校ではご友人と過ごす時間が楽しく、

お友達からの優しさが何よりの支えだったと言っておりました。

家族や友人と過ごした思い出は数知れずありますが、

特に、ディズニーランドへ訪れた際の喜び溢れる笑顔や、

毎日、お母様の手料理を美味しいと喜んで食べてくれた笑顔は

今でも胸に残っています。

家族様からのお言葉は、

長期にわたる辛い治療にも忍耐強く、最期までよく頑張ったね・・・。

未だ覚悟しても受け入れ難い喪失感や悲しみがありますが、

「ありがとう」という言葉に尽きます。

前に進むことを、その努力の道のりを、身を持って示してくれました。

お歳は18歳。あまりにも早すぎるお旅立ち。

生涯をかけたその思いと情熱は、

残された皆様へと受け継がれてゆくことと存じます。

④25歳の男性 喪主/父 心筋梗塞、突然死だった。

【基本情報】

- ・喪主は父。
- ・社会人になったばかり。
- ・ご両親はとても混乱している。

【ヒアリング内容】

- ・小学生からバスケットボールをしていた。
- ・インターハイに出場するほど、スポーツが出来た。
- ・チームメイトからの人望が厚かった。
- ・全力投球、一生懸命な人柄。
- ・勉強もよくできた優しい人。
- ・希望の企業に就職したばかり。
- ・まだまだこれからの人生を楽しみにしていたのに…。

共に過ごした日々を 忘れることはありません

息子が小学校から情熱を傾けていたバスケット、それは生き生きとした姿を私たちに見せてくれる場でもありました。

勉強だけではなく、趣味にも全力を尽くす姿勢は、周囲の人々への気配りや思いやりと同様、多くの人に影響を与えてくれました。

福山大学教育学科での日々、そして就職という新たな挑戦。

どんな時も前向きで、常に最善を尽くそうとする息子の姿は、私たち家族だけでなく、明るい光であり続けました。

インターハイ優勝を目指し、一生懸命練習する息子を支えることができたことは家族みんなにとってかけがえのない思い出です。

送迎やお弁当作り、そして一緒に応援に行ったあの日々は今でも心温まる記憶として残っています。

共に過ごした日々を、忘れずに、感謝の気持ちで見送ります。思い出をありがとう。安らかに眠ってください。

息子 田村修三は、令和七年七月七日、二十五歳にて生涯を終えました。

これまで支えてくださった皆様へ、深く感謝申し上げます。

ご多用中にもかかわらずご会葬頂き、誠にありがとうございます。どうか皆様方におかれましても、お身体ご自愛ください。

略儀ながら書状にて謹んで御礼申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいます
ようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

④田村修三様 25歳 令和7年7月7日逝去

思い出とは、人の魂と心をつなぐ揺るぎないもの・・・。

心の扉を開ければ、懐かしい思い出が浮かび上がるようです。

皆様から惜しまれつつ

令和7年7月7日の25歳でこの世を旅立たれました。

修三様は頭が良く、非常に勉強熱心な方・・・。

福山大学教育学科在籍中は、バスケットボール部で活躍し、

インターハイ出場までチームを引っ張る存在となりました。

「インターハイ優勝に向けて毎日練習していた」という思い出や、

合宿や試合前の厳しいトレーニング。

チームメイトから頼られる存在でもあった修三様は、

「何事も全力投球」がモットー！

小学校から始めたこのバスケットボールに対する姿勢は真剣そのもの。

「一緒に過ごした時間や試合が宝物のように感じる」という言葉は、

共に時を過ごしたすべての人々にとっても同じお気持ちです。

家族全員で応援に行った日々は今も色褪せることはありません。

お弁当を作ったり送迎したりする小さな支えも含め、

それらすべてがかけがえのない思い出です。と、お母様がおっしゃられます…。

そして卒業後は岡山の手企業へと就職し、

「夢だった企業に入れた」と喜びもひとしおだったそうです。

一人暮らしを始めて以降も、

「新しい生活でも最善を尽くそう」と決意をされていた修三様。

「ありがとう」という感謝の言葉や

「お空でもバスケ頑張って」というエールも多く寄せられています。

時が移り、喜びも悲しみも、それぞれに思い出を残して、

永遠の眠りにつかれました。

まだまだやりたいことが、たくさんあったことでしょう。

在りし日のお姿に思いをはせていただきながら、

ただいまからの葬送の時を、心静かに送りくださいませ。

⑤48歳の女性 喪主/夫 ガンで闘病していた。

【基本情報】

- ・喪主は夫。
- ・容態が急変した。
- ・故人の両親は県外にいる。

【ヒアリング内容】

- ・明るく人柄で、皆さんから好かれていた。
- ・大学時代を卒業してすぐに結婚した。
- ・3人の子どもがいる。
- ・初孫の顔を見るのを楽しみにしていた。
- ・ヨガとお花の講師をしていた。
- ・ガン治療お疲れ様。

温かい家庭を大切に みんな仲良く頑張ります

妻は常に家族のことを一番に考え、生涯を通じて私たちの幸せのために尽くしてくれました。がんという重い病と闘いながらも、家族のため、特に初孫の誕生を心待ちにしていました。

初孫の顔を見ることができ、その喜びようは言葉では表せないほどでした。家族旅行で富士山に登った際も、苦勞しながらもご来光と一緒に見た時の感動は今でも鮮明に私たちの心に残っています。日々の生活の中で、ヨガやアレンジメントフラワーを教える傍らで見せてくれたそのセンスは、多くの人々に影響を与え喜びを分かち合っていました。長男が結婚した時も孫が生まれた時も、家族全員が大切だったという妻の気持ちが変わることなく、それぞれの節目節目で私たち家族を温かく支えてくれました。

こちらのことは何も心配せず、ゆつくりと穏やかな時を紡いでほしいと願い、感謝の気持ちで見送ります。

妻 中原ひろみは、令和七年二月一日、四十八歳にて生涯の幕を下ろしました。

お世話になりましたすべての皆様へ、心より感謝申し上げます。ご多用中にもかかわらずご会葬頂き、誠にありがとうございます。どうか皆様方におかれましても、お身体ご自愛くださいませ。

略儀ながら書状をもちましてご挨拶とさせていただきます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいますようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

⑤中原ひろみ様 48歳 令和7年2月1日逝去

ひと雨ごとに日差しが明るくなり、どこからともなく漂う花の香り。

風に春の息吹を感じつつ、花々が優しく舞う季節はすぐそこです。

ひろみ様は昭和51年9月22日にこの世に生を受け、

令和7年2月1日の48歳で天に召されました。

生涯を通じて、ひろみ様はその明るく人懐っこい人柄で、

多くの人々から愛されました。

時には大きな声で笑い、

その笑顔と声は今も多くの人々の心に残っています。

闘病生活を送りながらも、決して諦めることなく、

初孫様の誕生を見届けるまで強く生き抜かれました。

ご家族と共に富士山に登り、ご来光を見た際の感動・・・。

時には苦労した思い出は、ご家族の絆をより深くしています。

また、知らない土地で友人をたくさん作ることができたことや、

ヨガとアレンジメントフラワーの講師として活躍されたことなどは、

ひろみ様の社交性と努力の証しです。

慈しみ、育てた長男様の結婚式ではホッとした表情をされ、

初孫様がお生まれになった時は喜んでらっしゃったそうです。

子供3人を育て上げる中で見せた愛情深さや母性は計り知れません。

このような素晴らしい一生を送られたひろみ様。

皆から好かれるその魅力的な性格や行動力、そして何事にも挑戦する勇気・・・。

これから向かう先でも、どうか好きなことを楽しみ、

穏やかな時を過ごせるよう、お祈りいたします。

新しい季節を共に迎えることはできなくなりましたが、

あの日、あの時、あの場所で語り合い、

笑い合ったことを思い返せば、つらい別れとなりました。

⑥52歳の男性 喪主/妻 突然死だった。

【基本情報】

- ・喪主は妻。
- ・突然のご逝去。
- ・「うどん屋たかまつ」を経営している。

【ヒアリング内容】

- ・大正時代から続く老舗のうどん屋さん。
- ・仕事熱心で真面目。
- ・趣味は仕事と言うほど熱心。
- ・家庭を大切にしてくれた。
- ・商売を通して地域にも貢献していた。
- ・多くのお客様が居て流行っていた。
- ・突然で信じられない…。

温かい家庭を大切に みんな仲良く頑張ります

夫は生前、温厚でで努力家、とにかく仕事に熱心な人でした。お店と家庭を大切に、祖先を敬う心を持ち続けていました。

どんなに忙しくても家族を第一に考え、休日は日曜大工で店の修理や丁寧な掃除をするなど、真面目に熱心に取り組む人でもありました。家庭でもその手腕を発揮してくれ、まとまった休みは少なかったですが、時には温泉旅行に行ったりと夫の笑顔とみんなの笑い声があふれる温かい家庭環境は、私たち家族にとってかけがえのない宝物です。

一生懸命仕事をしてくれてありがとう。

家族のために尽くしてくれて本当にありがとう。

そして長い間お疲れ様。これからはお店のことも私たちがしっかりと引き継いでいくから、どうか安心してくださいね。

寂しさがありますが、元気な頃の姿を思い出すたびに感謝の心が湧きます。

想い出をかみしめながら、夫の逝く背中を見送ります。

令和七年六月二十七日、夫 和田修一は五十二歳にて生涯を終え、永い眠りにつきました。共に歩み、支えてくださった皆様へ、深く感謝を申し上げます。

本日のお見送り、誠にありがとうございました。どうか皆様方におかれましては、お身体ご自愛の上お過ごしくださいますようお願いしつつ、略儀ながら書状をもって厚く御礼申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいますようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

⑥和田修一様 52歳 令和7年6月27日逝去

人生は、一日一日の積み重ね。

その思いが、私たちの一生を形づくっていきます。

大切な思い出を分かち合ったあの頃を偲び、別れの時が訪れました。

修一様は、昭和47年10月26日にこの世に誕生され、

令和7年6月27日に52歳の若さでこの世を去られました。

真面目で努力家、信心深い方・・・。

そのお方が故和田修一様。

何事にも全力を尽くし、特に仕事への熱意は人一倍強かったと伺います。

ご自身が受け継がれた「うどん屋たかまつ」は、

修一様の生涯の誇りであり、

お店に対する情熱は絶えることはありませんでした。

趣味は仕事と公言するほどだったそうですが、

日曜大工にも情熱を注ぎ、お店の修理を手掛けることもしばしば・・・。

多くの方々から見れば忙しい飲食店の経営者ではありましたが、

家庭内では笑顔と笑い声が絶えることがなく、

温かくも賑やかな家庭を築き上げられました。

「家族のためにありがとう。そしてお疲れ様。お店のことは心配しないでね。

しっかりやっていくから・・・。」

ご家族様からのお言葉でございます。

ご商売を通して地域社会に貢献され、

「本当に人生これから・・・」と思われていた中での逝去・・・。

その短すぎる人生は多くの人々に影響を与え続けています。

故人・修一様の遺志を受け継ぎ、「うどん屋たかまつ」そしてご家族は

これからも前を向き歩み続けていくことでしょう。

和田修一様が大切にされた場所は、

深い思いとともに受け継がれていくことと存じます。

多くのご遺徳と思い出を残され、

皆様の温かい真心が、旅立つ修一様の足元を照らすかのように、

悠久の旅路へとつかれました。

⑦68歳の男性 喪主/妻 急に倒れてご逝去。

【基本情報】

- ・喪主は妻。
- ・突然のご逝去。
- ・最近定年退職した。

【ヒアリング内容】

- ・一等航海士として長年勤めた。
- ・慎重で保守的な人柄。
- ・一度仕事に出ると半年以上も帰ってこなかった。
- ・定年まで勤めた後。そのあと、お家で庭いじりを始めた。
- ・趣味は、料理をつくること。
- ・家に帰れば料理をすることが好きだった。
- ・決して、美味しいとは言えないけれど、海から帰ってくれば、家族のために何かしてあげたい。という心遣いが嬉しかった。

あなたのそばに居られて 本当に幸せでした

夫は保守的で新しいことに手を出すのは慎重な人で、人に対して
もいつも寛大で穏やかでした。言葉遣い一つをとっても、優しき
が滲み出るような口調で話してくれました。

長年、一等航海士として海の上で働き続け、離ればなれになるこ
とも多かったですが、私たち家族は、海から帰ってくるのをいつ
も心待ちにしていました。

家に帰ると料理をするのが好きで決して上手とは言えないので
が、その心遣いが何よりも嬉しかったんです。

穏やかな日常生活が私たち家族の宝物です。

庭いじりや畑仕事に情熱を注ぎ、花や野菜を育て、充実した時間
を過ごしていました。

これからもっと一緒に思い出を作りたかったですね。

今度は海の上ではなく、お空の上で・・・。

私たちの人生に与えてくれたものは計り知れません。

そのすべてに心から感謝しています。

ありがとうございます。どうか安らかにお休みください。

夫 若狭康廣は、令和七年七月十一日、六十八歳にて生涯をとじ
ました。

お世話になりましたすべての皆様へ、心より感謝申し上げます。
略儀ながら書状をもちましてご挨拶とさせていただきます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいます
ようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

⑦若狭康廣様 68歳 令和7年7月11日逝去

七夕の夜、空には星が輝き、彩り豊かな短冊が風に揺れています。

まばゆい光が願い事を叶えるために煌めきます。

康廣様は、昭和32年3月12日、この世に生を受け、

令和7年7月11日にこの世を去られました。

享年68歳。

定年退職後の穏やかな生活を送られ、

庭いじりや畑で野菜を育てる新しい趣味に喜びを見出されていたそうです。

一等航海士として長年勤め上げ、

慎重で誠実な姿勢で、「無事故・安全第一」の信念を貫き通されました。

また、穏やかで、言葉遣いも柔らかく、温和なお人柄。

周囲を自然と和ませる雰囲気を持っていたらっしゃいました。

海上生活を送りながらも家族への愛情は深く、奥様やお子様というご家族が、

ご本人にとって、心から待ち望む港だったことでしょう。

航海をおえて、自宅に戻る家族団らんの時間は、

康廣様にとって最高の時間だったとようです。

お料理が趣味で海から戻る度、

家族のために心を込めて食事を振る舞っていたそうです。

その手料理と心遣いは家族にとってかけがえのない思い出です。

海への・・・、

家族への絶え間ない愛情で満ち溢れた康廣様の人生・・・。

深き海原よりも更に深い心を持つ康廣様へ心から感謝申し上げます。

出逢いが人を変えてゆくといわれています。

そして今、尊い思い出が残されました。

長い坂道をご自分の足で一步一步登られた、

その力強い足取りは、康廣様の歩んでこられた人生の道のりでしょう。

⑧78歳の女性 喪主/息子 短い闘病生活。

【基本情報】

- ・喪主は息子。
- ・短い闘病生活があった。
- ・元小学校の先生。

【ヒアリング内容】

- ・とうとう、この時が来たのか…。闘病生活お疲れ様でした。ゆっくり休んでね。
- ・世話好きで、気配りの人だった。
- ・厳しいけど、とても優しくかった。愛情深い。
- ・小学校の先生を定年までしていた。最期は校長先生までとなり、慕われていた。
- ・趣味は書道で、書を書くと、心が落ち着くと言っていた。
- ・色々な事を教えてくれてありがとう。私たちの誇りです。
- ・生徒さんからも、たくさんのお花が届きました。慕われているのがよくわかりました。

流れゆく時の中で 大切に積み重ねてきた想い出

母は、他人のために尽くすことに生きがいを感じていました。

世話好きで、周りへの気配りが自然と身についており、その優しさは家族だけでなく、職場や地域社会にも広がっていました。

家では、私たち子どもの躰には厳しかったですが、その根底にある愛情の深さを、年齢を重ねるごとに理解するようになりました。

小学校での教員生活を通じて多くの生徒さんたちと関わり、最終的には校長先生まで務め上げられたことは私たち家族にとっても誇りです。

趣味の書道では、心を落ち着かせる時間を持ちながらも常に新しいことへ挑戦し続ける姿勢を見せてくれ、それは母自身の生き方そのものでもありました。

定年後は父と共に穏やかな日々を送り、旅行中の楽しそうな様子は私たち家族の大切な思い出です。

共に過ごした日々を、注いでもらった愛情を、教えてもらった数々のことを忘れずに、感謝の気持ちで見送ります。

母 尾野満子は、令和七年五月十日、七十七歳にて生涯を終えました。これまで支えてくださった皆様へ、深く感謝申し上げます。ご多用中にもかかわらずご会葬頂き、誠にありがとうございました。

略儀ながら書状にて謹んで御礼申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいますようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

⑧尾野満子様 77歳 令和7年5月10日逝去

夏の兆しが静かに漂い始め、

新緑が風に揺れ、自然が季節の移り変わりを告げています。

満子様は昭和22年9月16日にこの世に生を受け、

令和7年5月10日までの77年間、数々の人生の節目と転機を経て、

多くの人々に愛されながらその人生を全うされました。

大学卒業後、教師としての道を歩み始め、

家庭を持たれる中でも常に教育者としての使命感を持ち続けられました。

小学校で長きにわたり教師として勤務し、

最終的には校長先生としてその職を全うされるまで、

多くの生徒たちから慕われていた存在でもありました。

気配り深く世話好きであった満子様は、

家族だけでなく周囲へも温かい心配りを忘れなかったそうです。

また、趣味であった書道では師範の免状も取得されており、

「書」を通じて自らの内面を表現することを努められました。

また、お孫様へ書道の技術を伝授するなど、

教育への情熱は衰えることはありませんでした。

その芸術性高い作品は多くの人々から称賛されています。

誰からも愛され、尊敬された満子様。

数え切れない程の貴重な思い出は今も私たちの心に残っています。

「色んな事を教えてくれてありがとう。」

満子様と過ごされた日々が、

いつまでも皆様の胸の中で輝き続けることをお祈りいたします。

またいつの日か、笑顔の満子様に逢えると信じ、

今はただ、心からの感謝の思いを込めてお見送りいたします。

⑨88歳の男性 喪主/息子 長い闘病生活があった。

【基本情報】

- ・喪主は息子。
- ・長い間施設に入っていた。

【ヒアリング内容】

- ・真面目で、人望のある人。誰にでも気さくに接して、穏やかな人。
- ・会社員で、定年まで勤めた。
- ・定年後は、好きな庭いじりや、友人たちと楽しく過ごしていた。
- ・趣味は庭いじり、釣り、時々、ゴルフ。
- ・友人の多い父でしたから、定年後も賑やかでした。しかし、昔の友人たちが他界するのを、とても悲しんでした。
- ・語ることが特になく、平凡な父の人生だったと思います。
しかし、今思えば、平凡だったことが、非凡だったのかもしれません。
- ・父を誇りに思います。

出逢いふれあい 父の人生に彩りを添えてくださった皆様へ

父は非常に真面目な性格で、人望も厚く、誰とでも気さくに接して穏やかな人でした。普段は地味で控えめな生活を送っており、豪華さや華やかさはありませんでしたが、その平凡さこそが、実は何よりも価値のある特別なものだったのかもしれない。

庭いじりや釣り、時々友人たちとゴルフを楽しむ姿はいつも満足そうでした。定年後の生活に小さな幸せを見出していたようです。

家族を第一に考え、母が亡くなった後も一人でした。生活の続け、施設に入ってから孫たちとの時間を心から楽しんでいました。

家族として過ごした時間、特に孫たちと賑やかに笑い合った思い出は私たち家族にとって最高の宝物です。

共に過ごした日々を、注いでもらった愛情を、教えてもらった数々のことを忘れずに、感謝の気持ちで見送ります。

父 北殿雅史は、令和七年八月十一日、八十八歳にて生涯を終えました。これまで支えてくださった皆様へ、深く感謝申し上げます。

ご多用中にもかかわらずご会葬頂き、誠にありがとうございます。

略儀ながら書状をもちましてご挨拶とさせていただきます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいますようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

⑨北殿雅史様 88歳 令和7年8月11日逝去

夏の暑さが一段と厳しさを増し、蝉の声が響く、まさに夏盛りです。

同じ季節にとどまることが叶わず、今、お別れの時が訪れました。

雅史様は、昭和11年8月13日に福岡県で長男としてお生まれになり、

令和7年8月11日に88歳でこの世を去るまで、

真面目さと人望の厚さを兼ね備え多くの人々に慕われていらっしゃいました。

友人関係も多く、

庭いじりや釣り、時々はゴルフといった趣味に没頭しながら、

前向きに過ごされ、闘病生活の間も決して諦めることなく頑張られたそうです。

穏やかながらも、心強く誠実な心は、

「今思えば、平凡だったことが非凡だった父の生き方だったように思えます」と
お子様が思い出を振り返りながらお話をしてくださいました。

平凡な日々こそが非凡であり得る価値を体現されてこられた雅史様。

お孫様までも語り継がれるべき素晴らしい足跡を残してくださいました。

奥様を早くに亡くされてからは一人暮らしをされておりましたが、

施設での生活でもお孫様たちと賑やかな時間を過ごすことが

一番の思い出だったそうです。

この世に生を受けてから、永遠の眠りにつく最期の日まで、

人はどれだけ多くの人とつながりを持つのでしょうか。

人生は、出逢いと別れの数珠つなぎ。

新たな道を歩みだす故人に、惜別の言葉を贈る日を迎えました。

雅史様、どうか、安らかにお休みください。

⑩100歳の男性 喪主/孫 長い間施設に入っていた。

【基本情報】

- ・喪主は孫。
- ・長い間施設に入っていた。
- ・妻は20年前に他界している。

【ヒアリング内容】

- ・優しくしたことしか思いつかない。
- ・戦争を経験した。その話はあまりしない。よくわからない。
- ・人生の大きな出来事は、戦争から生きて帰ったことだと言っていた。
- ・趣味は本を読むこと。
- ・おばあちゃんと仲良くしていた。
- ・遊びに行くと、とても可愛がってくれた。
- ・長生きしたね。お疲れ様でした。

祖父へ感謝を込めて・・・ 長い間ありがとう

祖父は、とても優しい人でした。一日一歩、三日で三歩、百歳生
きれば、三万六千五百歩。自分の足でしっかり大地を踏みしめ、
人生の道を歩いてきた祖父でした。百歳の長い生涯を全うし、
「長生きしたね。お疲れ様でした」と心から伝えたいです。

施設に長年おりましたが、家族としての絆は常に感じられるもの
でした。特に子どもの頃、家に遊びに行った際は、いつも温かく
迎えてくれ、愛情深く可愛がってくれた思い出が強く残っていま
す。

本を読むことが好きだった祖父は、静かな時間を楽しむ人でもあ
りました。また、戦争から生きて帰ったこと自身の人生の大きな
出来事でもありましたが、その経験が祖父の人生観や価値観に大
きな影響を与えていたことは間違いありません。

そうした祖父の一面を見ることができたこと、そして一緒に過ご
すことができた時間は私にとって大変貴重なものです。激動の時
代を生き抜いてきて祖父に心からの感謝を捧げます。

令和七年十月二十九日、祖父 長谷川健次郎は百歳にて天寿を全
ういたしました。

お世話になりましたすべての皆様へ、直接御礼を言えなかった祖
父に代わりまして、心より感謝を申し上げます。

本日はご多用中ご参列頂き、誠にありがとうございました。
略儀ながら書状にてご挨拶申し上げます。

令和七年十月二十九日

喪主

外

尚、本日は何かと混雑に取り紛れ不行き届きの段あしからずご容赦くださいます
ようお願い申し上げます

株式会社〇〇〇

⑩長谷川健次郎様 100歳 令和7年10月29日逝去

秋の実りに彩られた野山に目をやれば、遠い日の記憶がよみがえります。

健次郎様は、大正14年2月27日にこの世に誕生され、

令和7年10月29日の100歳で、長い人生を全うされました。

戦争を経験し、その後の平和な時代を生き抜かれた健次郎様は、

戦争についてあまり語ることはありませんでしたが、

無事に帰還されたことはご本人にとって大きな転機だったと伺いました。

子ども4人、孫9人、ひ孫5人という大家族を築き上げられ、

遊びに行くと、いつも温かく迎え入れてくれたそうです。

晩年は施設で穏やかな時間を過ごされ、

また、趣味であった読書は健次郎様にとって大切な時間であり、

幾つになっても、常に新しい知識を求める姿勢を見せられていました。

長寿を全うされ、

100年間の豊かな人生を送られた健次郎様・・・。

その穏やかさと優しさは永遠に私たちの心の中で生き続けることでしょう。

流れゆく月日の中でめぐり逢う、出逢いの不思議さ。

縁という糸が重なり合う瞬間を、人は運命といいます。

山を越え、そして谷を越えて、汗を流して歩き続けた長き道のり。

時をかけて健次郎様が築かれた努力の結晶は、

きっといつまでも輝きを放つことでしょう。
